

1939（昭和14）年～

1. 経歴・狭山市とのかかわり

香川県生まれ。小学校の時に教科書の落書きをみた先生が絵を描くことを進めてくれたのがきっかけ。中学校では、友人と室内で毎日絵を描いて過ごした。両親が映画館を経営していて活発な妹の存在は知られていたが、氏の存在は中学校を卒業するまで知られていなかった。

卒業してからも絵を描くこと以外の仕事はせず、自分の絵が動くような世界に憧れ、1963年東映動画に入社のため上京。結婚を機に狭山市に転居。1972年から1978年まで「広報さやま」に絵と文を連載したものが1冊の本「狭山の絵本」となる。現在も「広報さやま」には「残しておきたい狭山の風景」を連載している。「狭山市史」民俗編の中では、狭山の民話を担当する。また、入曽公民館主催の狭山を知る学習会に参加し、1974年「狭山市郷土かるた」の出版にかかわる。狭山市観光大使。



ご自宅にて2019（平成31）年



狭山の絵本より「なすとつかえと竜神様」

2. 主な業績

- ・東映動画の動画担当として「太陽の王子 ホルスの大冒険」「長靴をはいた猫」他にかかわる。また、原画担当として「海底3万マイル」「ながぐつ三銃士」他の作品がある。
- ・テレビ「まんが日本昔ばなし」演出、作画、美術（背景）を担当した「きつねがわらった」「オドテさま」他の作品がある。全1474話（1975～1994）中27話が埼玉県の話。そのうち「狭山の絵本」が原作の昔話は「なすとつかえと竜神様」、「大六天さま」、「鬼子母神さま」の3話ある。
- ・郵政省（現日本郵便公社）ふるさと切手「通りゃんせ」の原画を担当
- ・環境庁（現環境省）「環境月間ポスター」製作担当
- ・著書 「狭山市史」民俗編、「狭山の絵本」、動物昔話「がおろのおわび」、他

3. 特筆

独特なキャラクターを「童絵」と称して60年近く描き続ける。

狭山市に住み始めてから歩いて民話を集め、童絵で表現。狭山の絵本「民話集1」（狭山市民文庫第2集）のあとがきで、「絵本を持ち、市内めぐりをするのが私の願い」であり「祭り、わらべ唄、百景などといったものも題材に、私なりにふるさと狭山に取り組んで……絵を主体にした気軽な入門書風の本、10冊そろえるのが私の夢です」と書かれている。

狭山市内では、小中学校給食の食器や七夕祭りのポスター、様々な冊子の中で童絵に出会える。「お顔が似ていますね」とお話しすると、「だいぶしわくちゃになりました」と微笑まれた。童絵の世界がそこにあった。そして「東北の民話に憧れていて、雪の絵を描いてみたいと思う」と言われた。



池原昭治氏 自筆サイン